

- (19) 男 思念念
- (20) 道山
- (21) 集
- (22) S D 六出土木簡の大部分は削屑で、習書が多くみられた。(2)の裏面一文字目は「出」の可能性もある。(2)の「詔」は、地方官衙では希少な例と思われる。(5)は題籤軸であり、手原遺跡において、文書が巻子装で利用・保管されていたことが推測される。軸部を下にみると文字は天地逆になる。(11)は、短冊型の木簡の下端部左右を削り、羽子板の柄状に作っている。三ヵ所に穿孔がある。同一形態のものが他に一点あり、穿孔位置も同じため、二点で一セットと思われる。
- 手原遺跡は南西約2kmに所在する栗太郡衙岡遺跡の郡衙機能が八世紀後半以降に分散移転した可能性が指摘されてきたが、今回の木簡及び多量の削屑が出土したことにより、地方官衙での活動の一端が具体的に明らかになったといえる。
- 木簡の釈読・内容の検討には、大谷大学の櫻井信也氏、滋賀県立安土城考古博物館の大橋信弥氏、財滋賀県文化財保護協会の濱修氏・中川正人氏のご教示・ご協力を得た。

(佐伯英樹)

文化財写真に携わる人の必携マニュアル
『埋文写真研究』一九号

埋蔵文化財写真技術研究会編

卷頭言

鈴木 久男

特集 I 設立二十周年に寄せて

宮内 康弘

特集 II デジタル文化財写真へのとりくみ

井上 直夫

デジタル時代のモノクロ印刷

野島 悟

カラーフィルム発色テスト

他

在庫状況のお知らせ

頒価 一号～五号 品切れ、六号～八号 三五〇〇円

九号・十七～十九号 三〇〇〇円

十～六号 三五〇〇円

送料 一冊～四冊 五〇〇円

五冊～十冊 一〇〇〇円

一一冊以上 無料

ご注文は、当研究会まで直接お申し込みください。

ご送金は、郵便振替でお願い致します。

宛先 〒六三〇一八五七 奈良市一条町二丁目九番一号

奈良文化財研究所気付 埋蔵文化財写真技術研究会

電話 ○七四二一三〇一六八三八

郵便振替 口座番号 ○一〇五〇一九一九九三〇

埋蔵文化財写真技術研究会宛